

「シジュウカラの営巣(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢には、シジュウカラ、ヤマガラ、コガラ、ヒガラなど、木の幹の穴に営巣する、樹洞性営巣の野鳥が多数生息している。シジュウカラは都会にも多いが、都会のシジュウカラも、高原のシジュウカラも、共通の問題をかかえている。それは「住宅難」だ。ちょっと油断していると、郵便ポスト、植木鉢、雨戸の戸袋にまで巣を造ってしまう。要は営巣できる適当な木の穴が少ないのだ。



私の山荘の裏庭にある物置の壁には、シジュウカラやヤマガラ用の巣箱がかけてある。見通しが良く、野鳥に発見されやすいので、極めて営巣率が高く、ここ7~8年、100%営巣している「人気の物件」だ。



巣箱は細長く、上部には赤外線カメラが仕掛けてある。下部からは電源とインターネットに接続されたLANコードが伸び、東京からも内部を観察できる。



上の写真は、巣箱の中で争うシジュウカラとヤマガラである。一つの巣箱をめぐって、激しく戦っている。これもこのあたりの深刻な巣穴不足を物語っている。



しかし困ったことに、このあたりにはヘビも多い。特に体の細い、アオダイショウの子どもが一番タチが悪い。今までに何度も巣箱を襲われて、ヒナが全滅したこともある。インターネットで、ヒナがヘビに次々と飲まれる姿は、生中継したくない。



ことしは、ヘビの禁忌剤(ナフタリン剤)を物置周りに大量に撒いておいた。これで大丈夫と信じたい。